

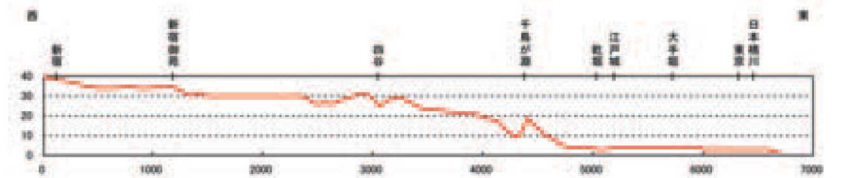
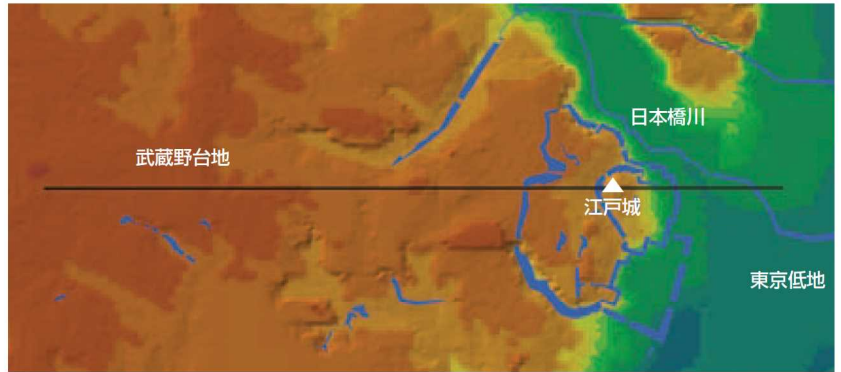
江戸はこうして造られた

洪積台地の東端に築かれた江戸城

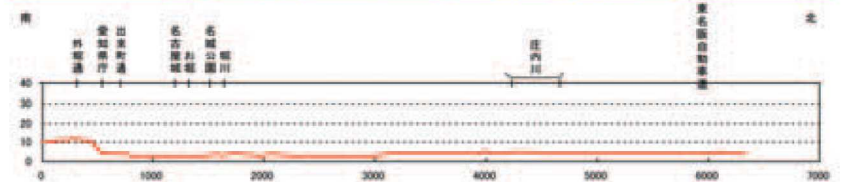
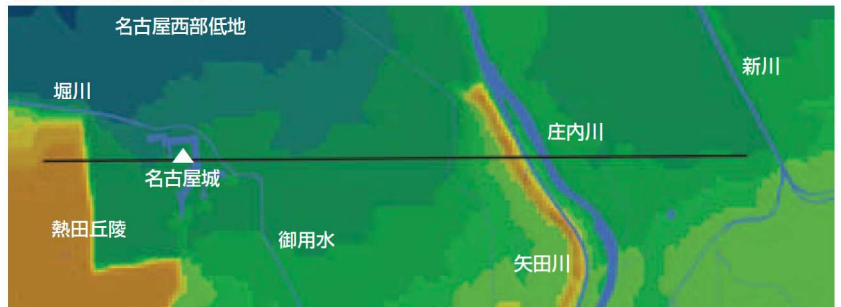


江戸城は大阪城や名古屋城と同じように洪積台地の突端に築かれた。ただし名古屋城の場合は、城郭建設の際、周囲の低湿地を埋め立てる目的で、城郭の基盤となる熱田丘陵が一段、切り下げられている。江戸城を武蔵野台地東端の麴町台に築くことによって、城郭域を水害禍から開放し、また東側に広がる利根・荒川の堆積域と港湾域を睥睨してにらみを効かせた。そして、江戸城外濠は、神田川や荒谷川などの開析谷を利用して掘削された。城郭の建設場所の地形条件に規定された大きな問題は、飲料水の確保であった。

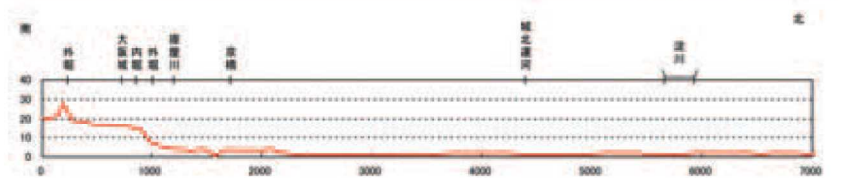
江戸城周囲の地形図



名古屋城周囲の地形図



大阪城周囲の地形図



東京都下荒川の明治初期図



名所江戸百景 吉原日本堤 (国立国会図書館HP画像)

江戸城東側の利根・荒川の堆積域は、新川と小名木川が開削されて海岸線が固定された。この結果、堆積域の下流デルタは干陸化が促進され、ここに江戸市中が形成された。そして、隈田堤、日本堤が江戸市中を水害から守る最後の一線として築かれ、台地から流れ出る神田川には放水路が開削され、また石神井川は付け替えられた。



国土地理院 数値地図50mメッシュデータをもとに八千代エンジニアリング(株)情報センターの協力により作製